



ぶらり相生第12号
平成29年11月

「相生に近代化遺産をみた？」

世界遺産として群馬県の「富岡製糸場」、島根県の「石見銀山」、広島県の「原爆ドーム」、九州（福岡・長崎・佐賀・鹿児島県）・岩手県・静岡県・山口県の「明治日本の産業革命遺産」など、近代化遺産が多く登録されるようになってきました。近代化遺産とは、幕末以降昭和戦前までの間に、近代的技術によって造られ、日本の近代化を支えた産業・交通・土木等に関する構築物のことです。

さて、那波の中央公園の丘の上に、相生市立歴史民俗資料館があります。まさに近代化遺産そのものです。外観は、明治時代の洋風建物をモデルとしたということです。そのモデルは、若狭野町にあった市内最古の鶴亀高等小学校とされます。1階は造船に関する展示、2階は「中世の矢野荘」を中心とした歴史資料、城跡や窯跡などの考古資料を展示しています。また、同階には「郷土の偉人コーナー」があり、日本美術院創立に参加した福田^{びせん}眉仙、小説家の水守亀之助や佐多稲子、俳人の浦山貢などの展示があります。

身近なところに、近代化遺産があることをご注目ください。ちなみに、今年、日本遺産で播磨に係する「播但貫く 銀の馬車道 鉾石の道～資源大

国 日本の記憶をたどる 73kmの^{わだち}轍～」が認定されました。姫路市から養父市までの銀の馬車道が対象です。

日本遺産は、地域の歴史的魅力や特色を通じて、日本の文化・伝統を語るストーリーで構成されます。従来の個々の文化財を指定する「点」としての文化財指定とは異なり、ストーリーで文化財を指定する「面」としての捉えるところに大きな特徴があります。

